

《履修上の留意事項》パソコンを使用する回があります。

《担当者名》富家 直明 (tomie@hoku-iryo-u.ac.jp)

【概要】

将来のスクールカウンセラー等として、幼児児童生徒、保護者及び教職員に対する相談・援助などを行うことにより、不登校・いじめ、暴力行為、などの諸課題への未然防止、早期発見、事後対応、障害を持つ児童生徒への支援、心理検査、学校への助言、保護者との連携や支援等の必要な対応が行うことができることを目指す上で基本となる教育心理学を中心とした内容の講義を行う。

【学修目標】

〔重要到達目標〕

- 教育に関する心理学を理解する。
- 教育現場において生じる問題及び背景について理解する。
- 教育現場における心理社会的課題及び必要な支援方法について理解する。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	オリエンテーション 教育心理学とは	授業の進め方の概説 教育心理学の領域、目的、歴史を概観する	富家 直明
2	学習の行動論的アプローチ	パブロフの古典的条件づけ、ワトソンの行動主義、ソーンダイクの道具的条件づけ、スキナーのオペラント条件づけ、トールマンの認知行動論的アプローチ、バンデューラの観察学習	富家 直明
3	学習の認知論的アプローチ	ゲシュタルト心理学、ピアジェの認知理論、ヴィゴツキーの社会文化的発達理論	富家 直明
4	情報処理論的アプローチ	学習・記憶のモデル、長期記憶、エピソード記憶、意味記憶、スキーマ記憶、メタ記憶	富家 直明
5	個人差の心理学	パーソナリティ、測定方法	富家 直明
6	個人差の心理学	知能、知能検査	富家 直明
7	個人差の心理学	学力、創造性	富家 直明
8	動機づけ理論	動機づけ理論、達成動機、学習性無力感、目標理論、自己効力、自尊感情	富家 直明
9	学習過程	教授技法、有意味受容学習、発見学習、プログラム学習、適性処遇交互作用	富家 直明
10	中間的学力形成の確認	自己採点型中間テスト 学力形成のメタ認知	富家 直明
11	教育の方法論	主体的、対話的で深い学び 令和の日本型学校教育（中間試験による知識定着の見直しを含む）	富家 直明
12	発達と教育、乳幼児期の発達	発達の過程、発達研究の方法、子どもの発見、乳児期と幼児期	富家 直明
13	児童期・青年期の発達	就学前後、学童期の発達、思春期、青年期、自我同一性	富家 直明
14	学校不適應への対応	不登校、いじめ、非行などの学校臨床	富家 直明
15	まとめとふりかえり	この授業で学んだ内容を振り返り、学習成果の達成度を確認する	富家 直明

【授業実施形態】

面接授業と遠隔授業の併用

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

**【アクティブ・ラーニング】**

導入している

**【評価方法】**

定期試験(100%)

**【教科書】**

教育心理学エッセンス（ナカニシヤ出版）

**【参考書】**

誠信心理学辞典（誠信書房）

**【備考】**

講義内容は日本心理学会、公認心理師養成大学教員連絡協議会が策定した公認心理師大学カリキュラム標準シラバスに従う。

**【ディプロマポリシーとの関連】**

DP1. 心の問題にかかわる職業人として必要な幅広い教養と専門的知識を修得している。

DP3. 社会の様々な分野において、心の問題を評価し、それを適切に判断し援助できる基礎的技能を修得している。

上記、心理科学部ディプロマ・ポリシーに適合している。

**【実務経験】**

公認心理師・スクールカウンセラー

**【実務経験を活かした教育内容】**

公認心理師としての臨床実務経験（スクールカウンセラー）を反映させた教育を行う。

**【その他】**

この科目は主要授業科目に設定している